

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成24年6月12日)

項目	ページ
1 5月17日の降ひょうによる農作物被害状況と対応について 【農政課】	1
2 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	別紙
3 第10回全国和牛能力共進会に係る第一次集合審査会について 【畜産課】	2
4 米川土地改良区の不適正経理にかかる特別検査の結果について 【農地・水保全課】	3
5 第64回全国植樹祭の準備状況について 【全国植樹祭課】	5
6 第2回境港まぐろ感謝祭について 【境港水産事務所】	6
7 「2012 近畿・中国・四国B-1グランプリ in 鳥取」の 開催結果について 【食のみやこ推進課】	別紙

農 林 水 産 部

5月17日の降ひょうによる農作物被害状況と対応について

平成24年6月12日
農 政 課

1. 被害状況について

5月17日(木)の降ひょうにより、県内で農作物に被害が発生し、被害状況および被害拡大を防止するための現地対応について以下のとおり取りまとめました。

○被害金額： 83,325千円

品目名	被害規模	被害額	市町村	被害状況
ブロッコリー	46.9ha	51,182千円	大山町 日吉津村 米子市 日南町	・葉の損傷、花蕾の損傷
葉たばこ	27.8ha	32,143千円	米子市 大山町	・葉の損傷、葉折れ
梨	54.8ha	—	米子市 大山町 南部町	・幼果の損傷、葉・枝の損傷
合計	129.5ha	83,325千円		

2. 被害拡大を防止するための現地対応について

- (1) 農林総合研究所から技術指導を関係機関に提供するとともに、JAや普及所が連携して緊急防除などを農家に呼びかけた。
- (2) ブロッコリーにおいて、秀、優、○に次ぐ規格であるB規格を設定し、市場へ出荷

3. その他

品質低下により、市場出荷が出来なくなったブロッコリーを県庁および西部総合事務所において共同購入。

購入実績：101ケース(1ケース5kg入り)を購入。販売額：147,300円
(ケース当たり1,400円～1,500円)

(参考) ひょう害B規格品として約350ケースを市場出荷しており、市場取引価格はケースあたり1,000円程度であった。よって、共同購入のほうが、市場取引価格に比べケースあたり400円～500円程度高く販売することができた。

第10回全国和牛能力共進会に係る第一次集合審査会について

平成24年6月12日
畜産課

今年10月に、長崎県で開催される第10回全国和牛能力共進会を控え、鳥取県の出品候補牛を一堂に集めた「種牛の部」鳥取県第一次集合審査会を開催し、このうち第2区、第3区、第5区について第一次選抜が実施されました。

1 概要

- (1) 日時 平成24年5月18日(金) 午前10時から午後2時30分
(2) 場所 東伯郡琴浦町湯坂「鳥取県中央家畜市場」
(3) 出品頭数及び選抜頭数

出品区	出品頭数	選抜頭数	参考 (本大会出品頭数)
第1区(若雄)	3頭	今回選抜未実施	1頭
第2区(若雌の1)	16頭	11頭	1頭
第3区(若雌の2)	14頭	9頭	1頭
第4区(系統雌牛群)	1群(5頭)	今回選抜未実施	1群(4頭)
第5区(繁殖雌牛群)	2群(9頭)	2群(8頭)	1群(4頭)
第6区(高等登録群)	2群(6頭)	今回選抜未実施	1群(3頭)
第7区(総合評価群)	1群(5頭)	今回選抜未実施	1群(4頭)

- (4) 主催 第10回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会

2 今後の予定

- 7月25日、31日 「肉牛の部」候補牛巡回調査(発育、血液性状、超音波肉質診断)
8月3日 「種牛の部」鳥取県最終選抜会(鳥取県代表牛決定)
8月21日 「肉牛の部」選畜委員会(鳥取県代表牛決定)
10月25日～29日 第10回全国和牛能力共進会(長崎会場)最終比較審査

第10回全国和牛能力共進会長崎大会の概要

開催テーマ 「和牛維新!地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化」

大会期間 平成24年10月25日(木)～10月29日(月)

開催場所 ○「種牛の部」及びイベント会場

長崎県佐世保市 ハウステンボス

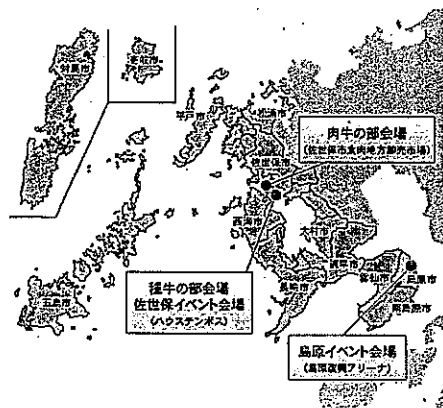
(イベントサブ会場 島原市 島原復興アリーナ)

○「肉牛の部」

長崎県佐世保市 佐世保市食肉地方卸売市場

出品区分及び頭数

「種牛の部」313頭、「肉牛の部」178頭 計491頭



米川土地改良区の不適正経理にかかる特別検査の結果について

平成24年6月12日

農地・水保全課

米川土地改良区にかかる特別検査の結果について取りまとめができましたので、5月24日付けで西部総合事務所長名で当土地改良区に対して検査結果の通知及び指摘事項に関する改善措置方針等の報告を求める通知（報告期限：平成24年6月22日）を行いました。

1 特別検査の結果

- (1) 期 日 1回目：2月21日～24日、2回目：3月6日～3月14日
- (2) 場 所 米川土地改良区事務所及び西部総合事務所
- (3) 検査者 国 農林水産省大臣官房検査課 3名、中国四国農政局検査課 3名
鳥取県 農地・水保全課 2名、西部総合事務所 3名
- (4) 検査結果

○指摘事項の概要

ア 重大な法令違反・不祥事に関する事項

(ア) 会計主任による現金着服等（確認事項）

会計主任が不適正な会計処理を行い、不明金（国県費支出を含む）を生じさせている事実が発覚し、今回の検査において次の事項を確認した。

①地区除外決済金に係る不明金（7,506千円）

・会計主任による収入命令の未稟議・未決済、金銭出納簿への未記帳及び過小記載。

②社会保険料等に係る不明金（35,470千円）

・支出命令の稟議の金額操作による社会保険料の過大計上及び干拓地貸付金の特別会計収入への未計上。

③補助金等に係る不明金（80,730千円）

・国営造成施設管理に係る補助金及び国からの受託金の執行で、補助金等の一部収入未計上（67,142千円）及び補助経費の二重計上等（13,588千円）。

※この不明金額は、補助金返還額ではない。

④現金収納に係る不明金（1,145千円）

・他目的使用料等に係る収入命令の未稟議、金銭出納簿への未記帳等。

(イ) 組織運営態勢上の不備・欠陥

役員は、土地改良法等に基づく役員の義務を十分果たしていないなど組織運営態勢上の不備・欠陥が、会計主任による不正経理の長期継続を許し、多額の不明金の発生を招いた。

①内部牽制の機能不全

・理事長は、会計主任に、現金、預金通帳及び公印の保管、出納事務等の会計処理を一任管理させており、内部牽制が全く機能していない。

・会計担当理事も、収入命令及び支出命令と金銭出納簿等の照合及び金銭出納簿等の記載事項の検算を行っていない。

②監事監査の機能不全

・監事は、会計処理に係る支出根拠の確認、支出の適切性の検証を行っていないなど、監事監査が機能していない。

イ 法令遵守取組の不徹底

・会計主任による不適正な会計処理が発覚しているにもかかわらず、役職員の法令遵守に関する意識の醸成及び法令遵守態勢の整備・確立に向けた取組が行われていない。

・理事長は、一般会計への積立金繰替運用について、総代会の承認を得ていない。

2 今後の米川土地改良区への改善指導等

(1) 改善措置命令

当土地改良区からの改善措置方針・措置状況の報告を受け、必要があれば、当土地改良区に対して土地改良法第134条に基づく業務改善措置命令を出す。

(2) 国営造成施設管理体制整備促進事業補助金の返還命令

国及び米子市、境港市と協議し、補助経費として不適正と判断したものは、補助金返還を求めていく。(補助経費の一件一件について証拠書類を確認しており、もう少し時間がかかる見込み。)

3 県内土地改良区(94改良区)への指導強化

(1) 土地改良区の自己点検の結果

今回の不祥事を踏まえ、緊急に自己点検を実施するよう3月30日付けで通知し、チェックシートにより自己点検結果を報告させたところ、会計処理不明金等の重大な不適正経理は報告されていないが、内部牽制が十分機能していないなどの状況が報告されているため、今後、指導を強化していく。

(2) 特別検査の実施

特に財政規模の大きい24土地改良区(概ね5千万円以上)について、自己点検結果も踏まえ、緊急に特別検査を実施する。(5月から8月頃まで)

(3) 役職員研修の実施

内部牽制を強化するため、これまでも役職員研修(理事長、事務局長等)を実施しているが、更に会計担当理事や監事を含めて適正な会計処理について重点的に研修を実施する。

第64回全国植樹祭の準備状況について

平成24年6月12日
全国植樹祭課

「第64回全国植樹祭」の開催に向け、プレ全国植樹祭や山口県大会から引き継いだ大会シンボルのお披露目式を行うなど、開催気運を高めながら準備を進めています。

1 プレ全国植樹祭（第58回鳥取県植樹祭）

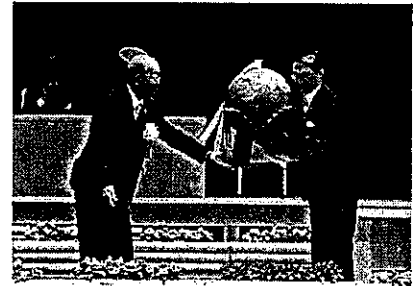
- (1) 開催日時 平成24年5月20日（日）9:50～15:00
- (2) 場 所 とっとり花回廊
- (3) 来場者数 1,100人
- (4) 全国植樹祭の試行的運営
 - ・来年の式典会場を使つての開催
 - ・代表植樹、代表種播き、市町村の木植樹
 - ・ボーイスカウト、ガールスカウトによる旗の掲揚
 - ・各総合事務所からのバス輸送
 - ・警察音楽隊による吹奏楽演奏など

2 第64回全国植樹祭公式弁当イラストコンテスト

- (1) 募集期間 平成24年2月14日～5月7日
- (2) 応募総数 618作品（県内対象）
- (3) 受賞作品 優秀賞3作品（以下のとおり）、佳作6作品
 - ・角 和香（すみのどか）米子市立和田小学校5年 弁当名：みんなにこここ鳥取弁当
 - ・柘井友香（ますいゆか）倉吉北高校3年 弁当名：鳥取の食材たくさん弁当
 - ・角 夏江（すみなつえ）鳥取短期大学2年 弁当名：鳥取味わい弁当
- (4) 講 評 県内のこれはおいしいというものが盛り込んである。地域色のある食材を見て楽しかった。どれも一つ一つ丁寧に色がきれいに描かれている。 など

3 第63回全国植樹祭（式典行事）

- (1) 開催日時 平成24年5月27日（日）10:15～12:20
- (2) 場 所 山口県山口市
山口きらら博記念公園 スポーツ広場
- (3) 招待者数 9,300人
- (4) 内 容 リレーセレモニーでは、天皇皇后両陛下御臨席の下、二井関成山口県知事から次期開催県である平井伸治鳥取県知事へ「大会シンボル（木製地球儀）」を引き継ぎ



4 全国植樹祭大会シンボルのお披露目式

- (1) 開催日時 平成24年5月29日（火）14:25～14:40
- (2) 場 所 県庁本庁舎1階 ロビー
- (3) 出席者 平井知事、伊藤県議会議長など
- (4) その他 今後は、県民の皆様の目に触れる場所に展示



5 「とっとりグリーンウェイブ」県民運動の実施状況

- (1) 苗木のスクールステイ・ホームステイ
スクールステイ：37校 約1,000本 ホームステイ：約230団体 約3,000本
- (2) 美鳥の大使 認定者数10,940人（平成23年9月～平成24年5月末）
- (3) リレー植樹 北栄町・大山町・若桜町・八頭町で実施、次回は7月26日に日南町で実施予定

6 企業協賛について

- ・(社)鳥取県トラック協会 ホームステイ苗木（約3,000本）の運搬
- ・有限会社 長田茶店 大山みどりのラベルに大会シンボルマーク「トッキーノ」を使用

7 その他PRの実施について

- 丸京どらドラ工場祭（米子市） 6月2日（土）
- 大山夏山開き祭（大山町） 6月2日（土）・3日（日）
- 中部は一つ！物産館ことうら祭り（琴浦町） //
- 近畿・中国・四国B-1グランプリin鳥取（鳥取市） 6月9日（土）・10日（日）
- 中海・宍道湖一斉清掃（米子市・境港市） 6月10日（日）

第2回境港まぐろ感謝祭について

平成24年6月12日

境港水産事務所

境港産クロマグロのPR及び資源管理の取組などの情報を広く発信しようと、昨年に引き続き境港天然本マグロPR推進協議会（会長：大谷和三 境港魚市場（株）社長）主催による「第2回境港まぐろ感謝祭」が開催される。

<感謝祭の概要>

秋の「水産まつり」を本祭とし、冬の「かに感謝祭」、夏の「まぐろ感謝祭」を境港の水産三大祭と位置づけ、境港を代表する水産物の知名度向上と消費拡大を図る。

- ・ 日 時 平成24年6月24日（日）午前10時～午後2時
- ・ 場 所 県営境港水産物地方卸売市場2号上屋内（境港市昭和町9-7）
- ・ 内 容 マグロ解体ショー、無料ふるまい（刺身800食・マグロ汁）、内臓料理実演・解説、プラスバンド演奏（境高校）、大漁太鼓演奏、マグロPR展示、販売コーナー（料理・切身）等
- ・ 主 催 境港天然本マグロPR推進協議会
- ・ 協 賛 （社）境港水産振興協会、山陰旋網漁業協同組合、水産物市場荷受協議会、境港鮮魚仲買協同組合、（協）境港水産物直売センター、境港商工会議所、境港商工会議所女性会、境港市観光協会、境港飲食店組合、山陰・境港名物料理を作る会、境港金融会、鳥取県、境港市



昨年の状況（来場者数：約5,000人）

【参考資料】

■初水揚げの状況

6月2日(土)、境漁港で昨年より4日遅いクロマグロの初水揚げがあった。初水揚げをしたのは地元の船団第28光洋丸(共和水産株式会社)で合計17.9トン、517本の水揚げとなった。漁場は北部日本海で、魚体は30kg台の3才魚が主体、平均単価は前年を大きく上回り2,214円/kgとなった。

水揚日 6月2日(前年:5月29日)

水揚船団 第28光洋丸 鳥取県(前年:第21たいよう丸 東京都)

水揚量 17.9トン(前年:63.7トン)

水揚本数 517本(前年:2,230本)

体重 範囲24~51kg 平均34kg(前年:範囲11~52kg 平均28kg)

単価 平均2,214円/kg(前年:1,426円/kg)

■これまでの水揚状況(6月8日現在)

期日	本船名	船籍	水揚量(トン)	金額(百万円)	平均単価(円/kg)
6月2日	28光洋丸	鳥取	17.9	39.6	2,214
合計			17.9	39.6	2,214

■太平洋クロマグロ資源管理措置及び昨年実績(大中型まき網漁業)

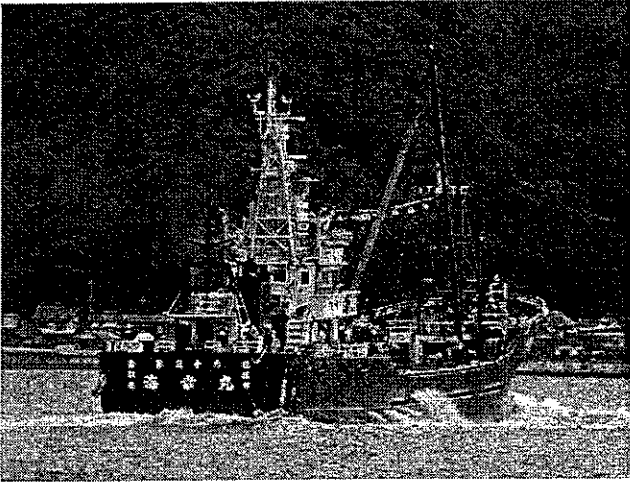
	未成魚(30kg未満)	成魚(30kg以上)
対象海域	九州西・日本海	日本海
対象漁期	10~9月	6~8月
漁獲上限	4,500トン/年 (9,000トン/H23,24の2年間)	2,000トン/年 (4,000トン/H23,24の2年間)
H23実績	4,234トン	1,796トン

※未成魚については中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)の保存管理措置に基づくもので、成魚についてはWCPFCの保存管理措置とは別に追加的に行うもの。

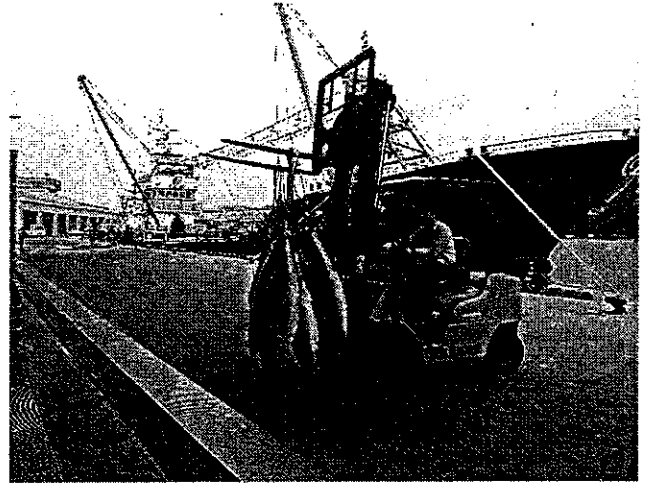
■今漁期の見通し(鳥取県水産試験場)

去年の30kg(3歳魚)サイズは、資源が多いと考えられていることから、成長し40kg程度(4歳魚)になったの漁獲が見込める。

境漁港における初水揚げの状況 (H24年6月2日)



初水揚げは地元の第28光洋丸船団（共和水産）
（写真は運搬船：第36海幸丸）



漁獲サイズは24~51kg（平均34kg）



本日の水揚量17.9トン、水揚本数517本



「境港天然本まぐろ」のブランドマーク



胃袋も加工原料として試験的に有効利用を開始



平均単価は2,214円（昨年の1.5倍）